



東日本大震災から7年がたち、犠牲になった方々の追悼式などが各地で行われました。私たちは震災を教訓にして、日ごろから備えを確認し、未来に伝えていかなければなりません。

震災当時、避難所で何日間も生活しなければならなかった人がたくさんいました。みなさんの中にも、実際に経験した方がいるかと思えます。



及川アドバイザーの

ぼうさい 学ぼう防災

12

避難所生活で大変なこと

- ①赤ちゃんからお年寄りまで、おおぜいの「他人」といっしょに生活をする
- ②プライバシーがほとんどない
- ③周囲の雑音やにおいが気になる
- ④夏は暑く、冬は寒く、ほこりっぽい
- ⑤自由にお風呂に入れない。つかれが取れない
- ⑥ストレスがたまり、おこりっぽくなる人もいる
- ⑦ペットといっしょに生活できないところが多い
- ⑧子どもたちの遊び場や学び場が少なくなる

東日本大震災翌日の避難所
2011年3月12日、仙台市
榴岡小体育館



大人数で生活狭く不自由

避難所ってどんなところ？

今回は、避難所での生活について考えます。

避難所は地震などの災害が起こり、自宅で生活できない場合に、一時的に生活する場所です。小中学校の体育館などが避難所になる場合が多いですが、自分が住む地域の避難所をあらかじめ調べておきましょう。

避難所には多くの人が集まります。震災当時、仙台市内では最大約3000人が避難した場所もありました。これだけの人が同じ場所で生活していくことを想像してみてください。

常に何かの音が聞こえます。自分のスペースはとても狭く、水や食べ物

も十分とはいえません。冬などは寒くて風邪が流行する恐れもあります。いつも飲む薬が切れて、体調が悪くなる人が出るかもしれません。

また、ふだんと違う様子に不安で泣きやまない赤ちゃんや、走り回る子どもがいるかもしれませんし、「うるさい」となる人もいます。

食物アレルギーがある人は、食べられる物がない

かもしれません。

さまざまな状況を考え、災害時にどんな準備が必要なのか家族で話し合っておきましょう。

自宅が危険な状態であれば、自宅で生活できずに水や食料、カセットコンロなど生活用品の備蓄をしておくことも大切です。

(仙台市地震防災アドバイザー・及川由佳里)
最終週に掲載

避難所生活の改善に向けて

仙台市は東日本段ボール工業組合と協定を結んでおり、災害時には必要に応じて段ボール製品の調達について協力を要請することとなっています。



段ボール製の間仕切りでプライバシーを保ちます



段ボール製簡易ベッドが避難所に入ることも

今週の注目ニュース

◇25日(日) **平昌** 冬季五輪の金メダリスト**小平** 奈緒さんの祝賀パレード(長野県茅野市)
小平さんは日本選手団の**主将**を務め、スピードスケートで**金銀2個**のメダルを取ったんだ。出身地の茅野市がお祝いするよ。

◇27日(火) **天皇**、**皇后**両陛下が**沖縄県**訪問(～29日)
皇太子夫妻時代を含め**11回**目。糸満市の**国立沖縄戦没者墓苑**で**犠牲者**を慰霊、**与那国島**の**日本最西端**の碑や**豊見城市**の**沖縄空手会館**を見学されます。

きょうの紙面

2

W杯世界図鑑

3

3分チャレンジ

4・5

いいね

小学校

6

英語

7

かほくワークシート

8

投稿特集